賢く 優しく 逞しく

１２月号・令和４年１２月１日発行

本校ＵＲＬ　http://musashimurayama.ed.jp/mmced5c/　武蔵村山市立第五中学校

自分も相手も大切にする

校　長　榎戸　千代子

先月１１月８日（火）に、満月が地球の影に隠れる「皆既月食」と月が天王星を隠す「天王星食」が同時に起こる「天体ショー」が見られました。冬は空気が乾燥するので、きれいな星空を眺めることができます。今年の「ふたご座流星群」の活動は、１２月１４日頃が最も活発に活動するそうです。寒さ対策をして夜空を見上げるのもいいですね。

７月号でも触れましたが、先月１１月は、都教育委員会が定める「ふれあい月間」でした。本校では、一人一人の生徒が、差別や偏見、いじめのない望ましい人間関係の基礎を培うことができるように、「人権尊重教育の推進」を学校経営方針の柱として、年間を通じて様々な教育活動に取り組んでいます。都教育委員会が作成している『人権教育プログラム』では、「人権教育の理念」を、「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めること」と定めています。これを受け、本校では各学年で発達段階に応じた「人権課題」を設定し、学習しています。１年生は「子供（主にいじめ）」と「高齢者」、２年生は「障害者」、３年生はＳＤＧｓとともに学ぶ「外国人」です。

２年生は１１月１日（火）に、ブラインドサッカー協会に所属されている辻一幸さんを講師にお招きし、講演と体験会を実施しました。辻さんは自らの体験の中で、幼少期に児童養護施設に預けられたこと、その施設でいじめや暴力を受けたこと、３１歳のときに目の病気を発症し、視覚障害になられたことなど、辛い過去を語られました。しかし、辛い経験をしたからこそ「暴力や人が嫌がることをしない、相手のことを考えられる人になれた。」「児童養護施設で育ったからサッカーと出会えた」などと話され、物事を前向きにとらえて生活してこられたことが分かりました。また、ブラインドサッカーを始めたのは、「視覚障害者が外に出るきっかけを作りたい。障害者も夢や目標をもってほしい。胸を張って生きてほしいから。」とおっしゃっていました。そして、最後に「夢をもち、小さいことから少しずつやることで目標に近づく。失敗してもやり続けること、諦めないことが大事。」という熱いメッセージをいただきました。

また、１年生は１１月１７日（木）、１８日（金）に、市の人権擁護委員さんによる「人権教室」を、１１月２５日（金）には、車イスや弱視フェイスシート等を使った高齢者体験を実施しました。人権教室では「人権」について説明していただいたあと、相手のよいところを探す「リフレーミング」を体験しました。委員さんからは、「相手の立場になって考えられる人になってほしい。」「自分に言われて嫌なことは言わない。自分の言葉に責任をもつ。」など、お互いに相手の立場を考え、思いやりの気持ちをもって接することが大切だというお話がありました。

本校ではその他にも、１０月号で紹介した生徒会の「五中サミット」や「ありがとうウィーク」など生徒会による、よりよい人間関係作りを目指した取組も行っています。これからも学校では道徳の授業や様々な教育活動を通して、「差別や偏見、いじめは絶対に許されない行為である」ということを繰り返し指導してまいります。御家庭におかれましても、自分や他者を大切にすることや思いやりの心について、機会をとらえて話題にしていただけると有り難いです。学校、保護者、地域の三者が一体となり、五中校区で「自分も相手も大切にする子供たち」を育ててまいりたいと思います。皆様の御理解、御協力をぜひよろしくお願いいたします。

明るいあいさつ・みんなの笑顔　第五中学校区（二小・八小・十小・五中）

第五中学校体罰防止標語：　チーム五中で　心に響く　生徒指導